

Slovenia Monthly November 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年12月8日



～11月の主なポイント～

内政：パホル大統領、総選挙を2022年4月24日に実施することを発表
外政：COP26へのスロベニア代表団の参加
経済：国民議会、2022年及び2023年の予算案を可決
コロナ：ヤンセン製ワクチンによる若年女性の死亡が認定
スポーツ：スロベニア人選手、アルペンスキーワールドカップで初優勝

政治

【内政】

●パホル大統領、総選挙を2022年4月24日に実施することを発表【5日】

パホル大統領は、総選挙を規定内で最も早い日程の4月24日に実施する計画を発表した。総選挙実施のための大統領令は2月中に署名される予定。ゾルチック国民議会議長はこのニュースを歓迎しつつも、国の状況を考えると、解散総選挙の方が良いと述べた。また、中道左派の野党も選挙の早期実施を望んでいる一方、連立与党はパホル大統領が選んだ日程に満足していると報じられている。

●エネルギー関連国有企業幹部の解任【5日－12日】

5日、スロベニア最大の電気供給会社であるエレクトロ・リュブリャナ社（国有企業）の監査役会は、2022年3月までの任期となっていたアンドレイ・リビッチ社長を解任した。マリヤン・ラヴニカル・同社財務部長が暫定社長となる。

8日、リビッチ氏は、監査役会の決定について裁判所に提訴すると発表した。同氏は、「監査役会からは解任の理由を過失と説明されると同時に和解の申し出があったことは矛盾であり、本当に過失があっ

たなら交渉なしに解任するはずだ。」とし、解任のプロセスは長期にわたり、また政治的決定であったと述べた。これに対し、ヴルトヴェツ大臣は、自分は政治家として企業の人事に介入することはしない、それはスロベニア・ソブリン・ホールディングSSHの仕事であるとして疑惑を否定した。

9日、GEN-I社の株主総会は、GENエネルギー社の監査役会がロベルト・ゴロブGEN-I社社長（2006年から現職）の任期満了（11月17日）後の再任に同意を与えなかったことを受けて、同社長の再任を否決した。一方、GENエネルギー社が後任社長として推薦したダヴォル・ディミッチ氏、理事会メンバーとして推薦したユレ・ソクリッチ氏も十分な支持を得ることができなかった。

11日、ゴロブ社長は記者会見を開き、GEN-I社は本年30億ユーロの収入、昨年比4倍の利益を見込んでおり、業務成績が解任理由とはならないことを説明し、自分の再任が否決された理由は、同社が作成した脱炭素化計画を「政治」が拒否したためであると述べた。

12日、エレクトロ・マリボル社（電気供給会社）の監査役会はボリス・ソヴィッチ社長を解任した。ヨジェ・ヘバル筆頭顧問が当面暫定社長を務める。監査役会は、同社長の解任理由はビジネス目標達成の遅滞、

グリーントランスフォーメーションに向けての不適切な準備、子会社の監督不行き届き及び信頼の喪失であると説明したが、ソヴィッチ氏はこれらを否定し、同社はここ数年に亘って成功裡に運営されており、解任の動きは政治的なものだと言った。

●GAS、SMCとの合流を支持【5日】

コウシュツア国民評議会議長率いる経済活動党(GAS)は現代中心党(SMC)との合併を支持した。コウシュツア議長によると、主な関心分野は、地方分権、小さな政府、脱官僚化である。GASは、合併後の政党名を「Free Choice」とすることを提案している。これは、「有権者に対して、必ずしも左翼や右翼である必要はなく、選択の可能性があるという象徴的なメッセージ」としている。

●STA、UKOMと公共サービス契約を締結【8日、18日】

STAのカドゥンツ暫定社長と政府広報局(UKOM)のウルバニヤ長官は、STAの公共サービスに関する200万ユーロの契約に署名した。UKOMによれば、STAは2021年中に200万ユーロを受領することとなった。11月8日及び18日にこのうち81万6千ユーロの支払いが終了している。カドゥンツ暫定社長は、「通常の資金調達が可能になり、その結果、今年のSTAの活動が可能になる」と述べた。STAのスタッフは契約締結を歓迎したが、同契約が間接的に編集部の自主性に影響を与える可能性があるかと警告した。

●スヴェトリッチ氏、憲法裁判所判事に選出【10日】

国民議会は、スヴェトリッチ氏を憲法裁判所の判事に任命した。中道左派の野党は投票をボイコットした。国民党(SNS)、年金者党(DeSUS)等少数派の議員も候補者を支持した。2020年7月に任期満了となったペンサ氏の後任人事の投票は、今回で4度目の試みだった。スヴェトリッチ氏は、すべての人がスロベニアの法律に信頼できるパートナーがいると信じられるよう、全力を尽くすと強調した。

●観光局のディレクターが退任【17日】

スロベニア観光局のディレクターを長年務めてきたパク氏が、組織の運営をめぐるポチヴァルシェク経済大臣との見解の相違を理由に退任した。パク氏は、過去7年間の成果を誇りに思い、最高の状態で組織を去ることになると述べた。

●刑法の改訂【18日】

議会は、政府高官またはその親族が脅迫を受けた場合、被害者が被害届を出さなくても容疑者の起訴を可能とする、刑法の改訂案を47票対41票で可決した。同改定案は、社会の敵意の高まりを受けて、2

月に司法委員会及び内務委員会が話し合いを行った結果、9月初旬に政府によって採択され議会に提出されていた。

●クステツ教育相への不信任動議が否決【20日】

20日、国民議会は、クステツ教育・科学・スポーツ大臣に対する不信任動議を賛成42票、反対39票で否決した(可決には90議席中絶対多数の46票が必要)。同動議に賛成票を投じたのは中道左派の野党で、国民党(SNS)及び年金者党(DeSUS)の議員は一人を除いて全員棄権した。なお、SNSとDeSUSの議員は、正式には連立政権のメンバーではないものの、重要な投票では政府を支持する傾向にある。野党側は、特に学校での新型コロナウイルス感染症への対応に関して、クステツ大臣のポートフォリオ管理が悲惨であると主張していた。クステツ大臣のメッセージングや主要な討論会への欠席、利害関係者や疫学者の意見に耳を傾けないこと、今回の新型コロナウイルス感染症の流行に対して学校側が十分な準備をせず、結果的に混乱を招いたこと等が批判の対象となった。

クステツ大臣への不信任動議が提出されたのは今回で2度目となった。今年3月に行われた1度目の不信任動議の採決では、38人の議員が賛成票を投じ、41人が反対票を投じていた。

●ディカウッチ法相への不信任動議が否決【22日】

22日、国民議会は、ディカウッチ法務大臣に対する不信任動議を賛成42票、反対28票で否決した。同動議は、中道左派の野党4党及び無所属議員によって、2名の欧州委任検察官の任命の遅滞と、ディカウッチ大臣の前職における脱税疑惑による同大臣の責任を追及するために提出された。同動議を提出した党のみで合計43票の賛成票を獲得できる見込みであったが、左派(Left)の国民議会議員2名は、新型コロナウイルス感染症の陽性反応が出たため投票できなかった。同動議に反対したのは、ディカウッチ大臣の所属するSMCと民主党(SDS)所属の28人の議員のみだった。新スロベニア(NSi)と年金者党(DeSUS)の議員2名は棄権し、DeSUSのフルシヤク議員は同動議を支持した。

同大臣は、自分の仕事が批判の対象になっているわけではなく、現政権の大臣であるという理由だけで同動議に直面しているとし、すべての疑惑を否定した。

●警察への政治的干渉の疑い【26日】

リュブリャナ警察のグラビッチ前本部長は、警察への政治的干渉の疑いを調査する議会の委員会の面談を受け、職務上の政治的圧力を受けたことを否定した。ルブニク現リュブリャナ警察本部長は、10月5日の抗議活動に対する警察の水放射や催涙ガスに

よる対応は、プロフェッショナルかつ合法的なものであったと委員会に述べた。一方、委員会のメドヴェド委員長(LMS議員)は、警察の全ての主要ポストへの人員配置について、現政権はすでに目標を達成したと述べた。

●放射性廃棄物処理施設建設は2022年に開始見込み【28日】

クルシュコ原子力発電所の周辺に低・中レベル廃棄物の特別貯蔵施設を建設するプロジェクトは、必要な書類の入手や業者の選定などの最終段階に入っており、2022年初頭に開始される見込み。試運転は2023年末から2024年初めに行われる予定であると、ヴィルシェク国立放射性廃棄物庁(ARAO)長官が述べた。計画は予定よりも遅れており、1億9400万ユーロの費用が見込まれている。

●パホル大統領、警察の政治化を警告【30日】

パホル大統領は、1989年に、リュブリャナにおけるセルビア民族主義者の集会を阻止し、スロベニアが独立を宣言するための第一歩となったと考えられている警察キャンペーン「北作戦」の記念式典に出席した。大統領は、スピーチの中で、警察の政治化に警鐘を鳴らし、「北作戦」の頃から警察の非政治化が始まり、それがスロベニアの独立への通過点の1つになったと述べた。

【外政等】

●スロベニアとハンガリーの国防相が安全保障について協議【2日】

トニン国防相とハンガリーのベンコ国防相は、ベンコ国防相がスロベニアを訪問した際に、安全保障問題や国防改革、その他の共通の関心事項について意見交換を行った。会談後、トニン国防相は、両国軍の近代化についてかなりの時間をかけて議論したと述べた。また、トニン国防相は、スロベニアとハンガリーの防衛産業が、両国の軍隊の近代化の取り組みにおいて協力関係を強化する方法を見つけることについて合意したと述べた。

●ロガル外相、ギリシャ外相とEUの強靱化について議論【3日】

3日、ロガル外相は、デンディアス・ギリシャ外相とアテネで会談した。両大臣は、スロベニアのEU議長国としての成果を中心に、二国間、地域、欧州、その他の国際的な問題について意見交換を行った。また、地中海諸国の統合、パンデミックの影響に対する協調的な対応と関連する経済回復、西バルカン諸国の状況、EU拡大、欧州の将来に関する会議についても議論された。

●カタール外相のスロベニア訪問【4日】

ロガル外相はスロベニア訪問中のムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニー・カタール外相と会談を行った。両大臣は二国間の協力と貿易の強化への希望を表明し、またアフガニスタン及び中東の情勢について協議した。また、ロジスティクス、エネルギー・セクター、観光及び情報・テクノロジー等、特に再生エネルギー分野におけるハイテクノロジーのノウハウについての協力可能性について強調した。カタール外相はヤンシャ首相を表敬し、経済協力強化の可能性及びエネルギー価格高騰等について協議した。

●COP26へのスロベニア代表団の参加【4日、8日】

4日、コビルシェク・スロベニア・チーフネゴシエーターを含むEUの気候変動交渉代表団は、グラスゴーで記者会見を行い、COP26成功へのコミットメントを再確認し、また今後数年間で野心を高めることが重要であると述べた。

8日、ヴィズヤク環境大臣は、グラスゴーで開催された記者会見で、ティーマンス・欧州委員会副委員長とともに、COP26は地球の未来と若い世代にとって重要なステップであると述べ、「責任を持って行動し、善意から具体的な行動に移す時が来た」と述べた。ティーマンス副委員長は、野心的な目標は具体的な対策に裏打ちされたものでなければ意味がないとし、交渉担当者や参加国にはやるべきことが多く残されていると指摘した。

●パホル大統領、外交団への演説でEUの結束を呼びかけ【5日】

パホル大統領は、スロベニアに駐在する外交団の会合で演説し、EUの団結と安定の強化を訴えた。また、パホル大統領は、EUの西バルカン諸国への拡大を早期に実現するよう繰り返し訴えた。外交団のためのレセプションは、スロベニアの独立30周年と2回目のEU議長国就任を記念して開催された。

●ヤンシャ首相、ドディック議員とBHの情勢を協議【7日】

7日、ヤンシャ首相は、ボスニア・ヘルツェゴビナ大統領評議会の一人であるドディック議員（セルビア系）と会談し、ボスニア・ヘルツェゴビナおよび同地域の政治状況について意見交換を行った。セルビアの報道機関「Tanjug」は、ドディック議員はヤンシャ首相に対して、デイトン合意を維持するというスルプスカ共和国のコミットメントを伝えたと報道している。

●スロベニア・カンボジア（オンライン）首脳会談【9日】

ヤンシャ首相は、カンボジアのファン・セン首相とオンラインで首脳会談を行った。同会談は11月後半にカンボジアが主催するASEM首脳会談を前にして開催されたもので、両首脳は二国間関係の強化、特に経済関係の潜在性等について協議した。

●LIBE代表団の報告書【29日】

29日、欧州議会の自由・司法・内務委員会（LIBE）は、10月に実施したスロベニア・ミッションの報告書について議論した。議論では、ミッションが的外れであったとするスロベニアのトムツ欧州議員と、批判を退けて建設的な協力を求めたイント・ヴェルト議長との間で激しいやりとりが行われた。公表された報告書では、スロベニアにおける敵意と深い偏見に満ちた風潮が、公的機関への信頼及び公的機関間の信頼を損なっていることに深い懸念を示している。また、代表団は、スロベニアの憂慮すべき状況は、欧州議会が利用できるあらゆる手段を用いて、フォローアップのモニタリングが必要であると結論づけた。

●イタリアと輸送機購入に関する協定に署名【17日】

トニン国防相は、ローマでゲリーニ・伊国防相とスパルタンC-27J輸送機の購入に関する合意書に署名した。国防省によると、実施契約の金額は付加価値税を含めて約7200万ユーロで、航空機の基本価格は4800万ユーロ、追加モジュールは1100万ユーロとなっている。トニン国防相は、この航空機は軍だけでなく、スロベニア全体に役立つものであり、他国と共有することもできると述べた。

●欧州委任検察官の任命【18日】

18日、政府は、スロベニアの欧州委任検察官として、申請した2人の候補者であるターニャ・フランク＝エレル氏とマテイ・オシュティル氏の名前をEUに提出することを決定した（5月に政府が手続やり直しを命じたときと同じ2名の候補）。法令上は、国の任命手続きが完了するまでは暫定的な任命であると説明している。政府は、これまで検察官候補者の欧州検察庁への提出が遅れており、国に重大な損害を与える可能性があるため、今回の決定を行ったと説明した。一方、国家検察官協会の長であるヴァレンツッチ氏は、任命手続きは完了しており、国家検察法は暫定という概念を認めていないと述べている。

19日、欧州委員会のウィガンド報道官は、スロベニアの2名の委任検察官が欧州検察庁（EPPO）に任命されたことは、正しい方向への一歩であり、欧州委員会は引き続きその動向を見守っていくと述べた。

●カシス・スイス外相の来訪【18日】

ロガル外相は、スロベニア訪問中のカシス・スイス外相と会談を行い、EU・スイス間の包括的条約（スイスが5月に交渉を打ち切ったもの）、協力強化のための他の方策等について議論した。カシス外相は、条約はスイスにとっては大きすぎるステップであったと述べ、当面は小さなステップを積み上げていくことに集中したいとした。また、ロガル外相は、スロベニアは議長国として、EU・スイス間の信頼の回復のための努力を惜しまないと述べた。

●クロアチアと合同の独立30周年記念碑の除幕【22日】

22日、ヤンシャ首相は、当地南東部のオトチェツにおいて、プレンコヴィッチ・クロアチア首相とともに、独立プロセスにおける両政府の協力を記念する記念碑の除幕式に出席した。両国の独立30周年の本年に、スロベニア及びクロアチア独立時の二国間会合や協力を記念して、記念碑の除幕式が行われた。式典には、ペテルレ・スロベニア初代首相とグレグリッチ・クロアチア元首相も出席した。

除幕式のスピーチでヤンシャ首相は、30年前の出来事、ユーゴスラビア軍の侵略からの防衛、独立時の両国の協力関係の重要性について述べた。また、ヤンシャ首相はスピーチの中で、両国の関係の重要性について言及し、30年前にスロベニアとクロアチアの独立に貢献したすべての人々に深い敬意を表明した。

●スロベニア・ブルガリア首脳会談【22日】

22日、パホル大統領はラデフ・ブルガリア大統領と電話会談し、ラデフ大統領の再選を祝福した。両大統領は新型コロナウイルスの現状について協議し、両

国のワクチン接種率上昇のための努力が重要であるとした。また、ブルガリアによる北マケドニアのEU加盟交渉ブロックについて、両国が受け入れられるような妥協案の模索可能性についても協議した。

●スロベニア・ポーランド首脳会談【24日】

ヤンシャ首相は、スロベニア来訪中のモラヴィエツキ・ポーランド首相と会談した。ヤンシャ首相は、ベラルーシとの国境において移民危機に直面しているポーランドへの支援を約束し、EUはその域外国境の全ての対策のための資金を提供すべきだと述べ、国境の物理的な障壁は違法移民や暴力を防ぐのに効果的だと証明されていることに言及した。

●ヤンシャ首相、ASEMでパンデミック対策への協力強化を要請【25日、26日】

ヤンシャ首相は、25日から26日にかけて開催された第13回アジア欧州会合(ASEM)首脳会合にオンラインで出席した。スロベニアは、EU理事会議長国および欧州グループの地域のコーディネーターとして、このサミットに参加した。開会式では、ヤンシャ首相が挨拶を行い、新型コロナウイルスとの戦いにおける協力関係の強化を呼びかけた他、デジタル化の重要性についても強調した。

●スロベニア・ドイツ電話首脳会談【25日】

25日、ヤンシャ首相はメルケル独首相と電話会談を行った。両首相は、EUの東方の隣国、ポーランド・ベラルーシ国境、移民圧力に関するEUの共通ポジション、ロシア軍のウクライナ国境への圧力等について協議した。ヤンシャ首相は、EUが団結し、油断なく、活発であることが重要であると述べた。

●スロベニア・セルビア首脳会談【28日】

28日、ブルド・ブリュニ・プロセス次回首脳会合の準備のためにセルビア訪問中のパホル大統領は、ヴチッチ・セルビア大統領と会談した。パホル大統領は、EUの西バルカンへの拡大は遅すぎて、それがナショナリズムや国境変更についての政策を変更させ、安全保障を脅かしており、本件プロセスにおいては両者が努力を重ねなければならないと述べた。

●パホル大統領、プリシュティナ-ベオグラード間の対話の進展を要請【29日】

パホル大統領は、コソボのプリシュティナを訪問し、オスマニ・コソボ大統領およびクルティ首相と会談し、プリシュティナ-ベオグラード間の対話の進展を求めた。また、パホル大統領は、コソボに改革の実施を継続するよう促すとともに、これまでに合意されたコソボ・セルビア間の協定を実施し、両国関係の包括的な解決策を模索する必要性を強調した。

●スロベニア・オーストリア首脳会談【30日】

ヤンシャ首相は、シャレンベルグ・オーストリア首相と、新型コロナウイルスについてのオンライン会談を行った。両首相はオミクロン株やワクチン3回目接種の重要性について協議し、現在の感染状況について評価するとともに、導入している規制と効果について情報を交換した。両者はベラルーシ・ポーランド国境の状況や西バルカンについても協議した。

経済

【経済一般、指標・統計】

●スロベニアGDP予測とインフレ【11日】

欧州委員会は秋期の経済予測を発表し、スロベニアの2021年のGDP成長率の予測は上方修正され、6.4%となった。7月の予測では5.7%となっていたもの。2022年の成長率は0.8%下方修正され4.2%と予測されている。EU及びユーロ圏の本年の平均成長率は5%と予測されており、スロベニアはそれを上回っている一方、欧州委員会は同国のインフレを警告している。

●2021年上半期に住宅価格が急上昇【17日】

測量・地図局(GURS)の最新の半期報告書によると、3月に不動産市場が回復し始めてから、アパートや住宅の価格が急上昇していることが分かった。上半期は前年同期比で約8%の上昇となり、2008年の不動産危機以降、半年間で最も高い伸びとなった。集合住宅のアパートの価格は、リュブリャナを除く主要都市で過去最高を記録した。全国レベルでの中古アパートの中央値は、1平方メートルあたり1,980ユーロに達した。

●国家予算案の可決【18日】

議会は2022年及び2023年の予算案を可決した。同案においては、財政赤字は本年の40億ユーロから、2022年には24.7億ユーロ(GDPの4.6%)、2023年には15.2億ユーロ(GDPの2.6%)に減少することを想定しているが、中道左派野党や財政評議会は右は現実的ではないとして疑問を呈した。2022年の支出予定は139.4億ユーロ、2023年は133.6億ユーロとなっている(本年は150億ユーロ弱の見込み)。一方で、2022年は114.7億ユーロ、2023年は118.4億ユーロと、コロナからの回復を見込んで大きな収入増を想定した予算案となっている。

●経済指標【30日】

スロベニア統計局によれば、2021年第3四半期のスロベニアのGDPは前年比5%増となった。第2四半期に続いて家計支出の大幅増加(9.3%増)が数字を後押しした。一方、インフレも加速しており、11月時点のインフレ率(前年比)は4.6%で、2008年終わり以来最も高い数字となった。石油関係製品の値上がり最も大きな原因で、消費者価格の1.8%の上昇を生み出している。

【企業、産業の動向】

●スロベニアのエネルギーの未来に関する協議の開催【5日】

パホル大統領が主催したスロベニアのエネルギーの未来に関する協議では、専門家の中で、スロベニアがエネルギー需要を満たすためには、原子力を含むすべてのカーボンフリーエネルギー源に頼る必要があるという一般的な見解が示された。また、同協議への参加者は原子力に関する国民投票を行うことに賛成した。電力取引会社GEN-IのCEOであるゴロブ氏は、選挙後、新政権が成立した最初の年に国民投票を行うことを提案した。

●デロ紙ビジネススター賞の発表【11日】

ITオートメーションとデジタルトランスフォーメーションのためのリモートデスクトップアクセスとソリューションを提供するXLAB社(日本にもビジネスを展開)が、デロ紙のビジネススター賞を受賞した。同賞は創設されて5年目で、審査員はXLAB社について、IT業界での評判が高く、海外市場で製品を販売できることを称賛した。同社は海外で収益のほぼ90%を生み出しており、昨年の収益は40%増加して1,050万ユーロ、純利益は270万ユーロに達している。

●スロベニア、再生可能エネルギーと原子力を組み合わせたエネルギー転換に着手【16日】

ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、エネルギー移行において原子力に期待していると述べた。「太陽光発電所を増設し、水力発電所を4基設置する可能性がある。また、風力発電も利用しなければならない。しかし、自然エネルギーだけでは十分ではない」とし、原子力の必要性を強調した。

●政府、ビジネスへの新たな刺激策等を提案【19日】

政府は、新型コロナウイルスの影響を抑制するための追加措置に関する法案を承認し、年金受給者などの弱い立場にある人々への特別手当や、企業への新たな刺激策を計画している。自営業者や農家には新型コロナウイルスや不可抗力による収入減の一部が補償され、企業には従業員の新型コロナウイルス検査の費用が返金される。また、観光用バウチャーを2022年6月末まで延長することも提案されている。中小企業や観光業者の団体は、新たな刺激策を歓迎しているが、スロベニアが新たなロックダウンに陥った場合には、さらなる支援を期待すると述べている。

新型コロナウイルス関連情報

●11月30日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

11月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計423,177名で、死者は計5,224名となっている。30日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	106,222
ドレンスカ・ベラクライナ地方	32,772
サヴィンスカ地方	53,476
ポドラウスカ地方	65,486
ゴレンスカ地方	42,425
ポムルスカ地方	23,397
オバルノ・クラシュカ地方	21,697
ゴリシュカ地方	22,401
コロシュカ地方	13,818
プリモルスコ・ノトランスカ地方	10,775
ポサウスカ地方	16,507
ザサウスカ地方	11,461

●ワクチン接種の副作用に対する補償制度を提案【19日】

政府は、新型コロナウイルスのワクチンによって深刻な健康被害を受けた人々に対する補償制度を提案した。ポクルカル保健大臣は、同補償制度はワクチンに対する信頼性を維持し、国の予防接種プログラムを効果的に実施するための重要なステップであると述べている。ワクチン接種後に重篤かつ恒久的な生命機能の低下をきたした者には、6万ユーロの補償金が支払われる。また、ワクチン接種後に死亡した者の子供の親や配偶者等には1万ユーロ、ワクチン接種後に死亡した者の未成年の子供には2万ユーロが支払われる。

●ヤンセン製ワクチンによる若年女性の死亡認定【30日】

9月にヤンセン製ワクチンを接種した20才の女性の死亡について、検証委員会は、同人の死は間違いなくワクチン接種と関連性があるとの全会一致の評価を発表した。調査の結果、ワクチン接種が女性の血栓性血小板の減少を引き起こしたことが確認された。ポクルカル保健大臣は、同ワクチンの使用を中止した上で、ワクチン接種者から同意書を伴う特定の要求があった場合にのみ同ワクチンを使用できるようにし、これを新たな恒久的なルールにすると述べた。

社会・文化・スポーツ

●スロベニアの登山家がネパールに新しい登山ルートを開く【5日】

スロベニア登山協会(PZS)は、スロベニア登山家のペアが、ネパールのチョブツェ山(6680メートル)の北西面の未開拓ルートからの初登頂に成功したと報告した。彼らは10月28日から30日の間にこの偉業を達成した。このルートからの登頂は、技術的な難しさを持つ高地登山であり、風と寒さはまさにヒマラヤの体験であったと協会は述べた。

●今年のワイン、品質向上も生産量減【7日】

今年のスロベニアのワイン生産量は、昨年よりも10~15%減少する見込み。春期のドレンスカ地方で発生した霜の影響を強く受けた。しかし、品質の点では平均以上であると報告されている。クラス地方がイノシシや鳥の影響を受けて生産減となるものの、プリモルスカ西部地方の生産量は通常に近い。スロベニアは年間8000万から9000万リットルのワインを生産している。

●コジヤンスコ・リージョナルパークがユネスコ賞を受賞【19日】

スロベニア東部の国境に沿って広がる保護された自然と文化遺産のエリアであるコジヤンスコ(Kozjansko)リージョナルパークが、文化景観保護および保護活動の促進に貢献した施設・団体を表彰する「文化景観保護と管理に関するメリナ・メルクーリ国際賞」を受賞した。コジヤンスコ・リージョナルパークは、並外れて多様な自然の場所であると、評価された。

●スロベニアの世帯数増加【30日】

統計局は、スロベニアの人口は2011年から2021年までの10年間で5万9千人増加し、世帯数は4万6千、家庭数は2万増加したと発表。統計局によると、1世帯あたりの人数は平均2.41人、子どもがいる家庭の子どもの平均人数は1.56人。スロベニアの人口は2021年1月1日時点で2,108,977人でした。核家族世帯が一番多く、合計462,744世帯(54%)であり、単身世帯は292,301(34%)であった。

【スポーツ関連】

●カーチャ・ファイン選手がヨーロッパ水泳選手権で銅メダル【7日】

ロシアのカザンで開催された欧州短期水泳選手権で、スロベニアの五輪選手であるカーチャ・ファイン選手(20歳)が女子200メートル自由形で銅メダルを獲得した。ファイン選手はメダル獲得と同時に、スロベニアの新全国記録を樹立した。このような大規模大会でのスロベニア選手のメダル獲得は6年ぶり。

●五輪金メダリストのガルンブレッド選手、クライミングの歴史を作る【9日】

東京五輪金メダリストのヤニャ・ガルンブレット選手(22歳)が、スペイン、カタルーニャ地方に位置するオリアナの岩場でFish Eye(50メートル)のオンサイトに成功した。当クライミングサイトは、難易度8cに指定されており、これまで、男性のクライマーしかオンサイトに成功していなかったが、今回ガルンブレッド選手は、女性クライマーとして世界初のオンサイトとなった。また、その2日後にも同様にオリアナで2本目の8c(American Hustle)に立て続けにオンサイトした。

●スロベニア人選手、アルペンスキーワールドカップで初優勝【14日】

13日に行われたアルペンスキーワールドカップの女子ジャイアントスラロームで、スロベニアのアンドレヤ・スロカー選手(24歳)が優勝、大会全体をリードした。スロカー選手にとってはキャリア初の勝利であり、スロベニアにとってはパラレル・ジャイアントスラローム女子での史上初の勝利でもあった。

●スキージャンパーのエマ・クリネツ選手、表彰台を獲得【26日】

スロベニアのエマ・クリネツ選手は、ロシアで開催された女子スキージャンプワールドカップ大会で2位を獲得。スロベニアの女子スキージャンプチームは、今シーズンの最初のワールドカップイベントで好成績を収め、3人のスロベニアスキージャンパーがトップ10にランクイン。ウルシャ・ボガタイ選手が4位、昨シーズンのワールドカップの優勝者であるニカ・クリジュナー選手が8位でフィニッシュしている。

●スロベニアのスキージャンパー、ダブルウィンと表彰台【27日】

スロベニアの女性スキージャンパーは、ロシアで開催されたワールドカップ個人種目で、史上初のダブル勝利を収めた。エマ・クリネツ選手がシーズン2回目の優勝、ウルシャ・ボガタイ選手が2位を獲得した。男子では、アンジェ・ラニシエク選手が、フィンランドのルカで開催されたワールドカップイベントで2位を獲得している。スロベニア人選手の好調が続いている。

●スキージャンプ男子、ワールドカップイベントで優勝【28日】

27日にフィンランドで開催された男子スキージャンプワールドカップイベントで、アンジェ・ラニシエク選手が、前日の2位に続き、優勝。

カルニオランミツバチの3Dモデル

世界ミツバチの日(5月20日)が、2017年12月の国連総会で制定された背景には、養蜂の盛んなスロベニアのイニシアチブが大きく貢献していた事は皆様ご存知のことと思います。近代養蜂の先駆者であるスロベニア人、アントン・ヤンシャ(Anton Janša、1743年～1773年)の誕生日に由来するこの国際デーは、生態系に対するミツバチやその他の花粉を媒介する生物の役割の重要性を認識するための日として制定されました。

ミツバチの重要性などについての教育に必要な素材として、今年の8月にスロベニア養蜂協会はスロベニア原産のカルニオランミツバチの3Dモデルを製作しました。

スロベニアの養蜂家協会によると、この3Dモデルは、大きさ約1.5メートルで、実際のミツバチの100倍スケールで作成されました。3Dイメージーション技術であるマイクロCTなどの最先端技術を駆使して開発され、実際のカルニオラン蜂の体の特徴との類似性は90%以上と精巧なつくりになっています。この精巧な3Dモデルは、教育目的だけでなく、カルニオラン蜂についての認識を高めるためにも使用されます。

モデルは回転するプラットフォームにセットされており、解説アニメーションと同時に駆動する機能を備えています。解説はスロベニア語と英語でセットされており、カルニオラン蜂の生体特性等をアニメーションと音声でわかりやすく提供するコンテンツを兼ね備えています。また、本コンテンツには、目の不自由な方にも理解を深めていただくための、ミツバチの3Dプリントモデルが付属しています。

人間はミツバチなどの花粉媒介者のおかげで食料を得ることができています。また、ミツバチは、持続可能な農業や生物の多様性の保全にも重要な役割を果たしている。ミツバチや養蜂を保護することは、生態系を維持すること以外にも、農業を促進し、貧困や飢餓を減らすことにも繋がるということを忘れてはいけませんね。



(写真: STA)

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。(※インターネットで提出をされると、変更届・帰国届もオンラインで手続きできるため、たいへん便利です。)

また、スロベニア国内での引っ越し、第三国へ転出した場合や、日本に帰国した場合には、在留届の変更届、帰国／転出届を必ずご提出ください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>